

おおくにたまじんじゃ なな ふ し ぎ 大國魂神社の七不思議

ごくうでん げんざい けいばじょう しき ち ない
御供田（現在の競馬場の敷地内にありました）



ちょうるい
鳥類



まつ
松



旧甲州街道

京王線
甲州街道

巽神社

松尾神社

やたけ
矢竹



中雀門

鐘楼

相撲場

宮乃咩神社

大鳥居

拝殿

もみ
糺の雫



手水舎

おおいちよう
大銀杏



東照宮

住吉・大鷲神社

しずく
雫



神楽殿

おおすぎ
大杉



稲荷神社

馬場大門の
ケヤキ並木

府中駅

府中街道

JR南武線

府中本町駅



かどまつ
府中ではお正月に門松を立てないって、
い なん
おばあちゃんが言ってたけど何でだろう？

なな ふ し ぎ かく
そのひみつがこの七不思議に隠されています。さあ、一緒に調べてみましょう。

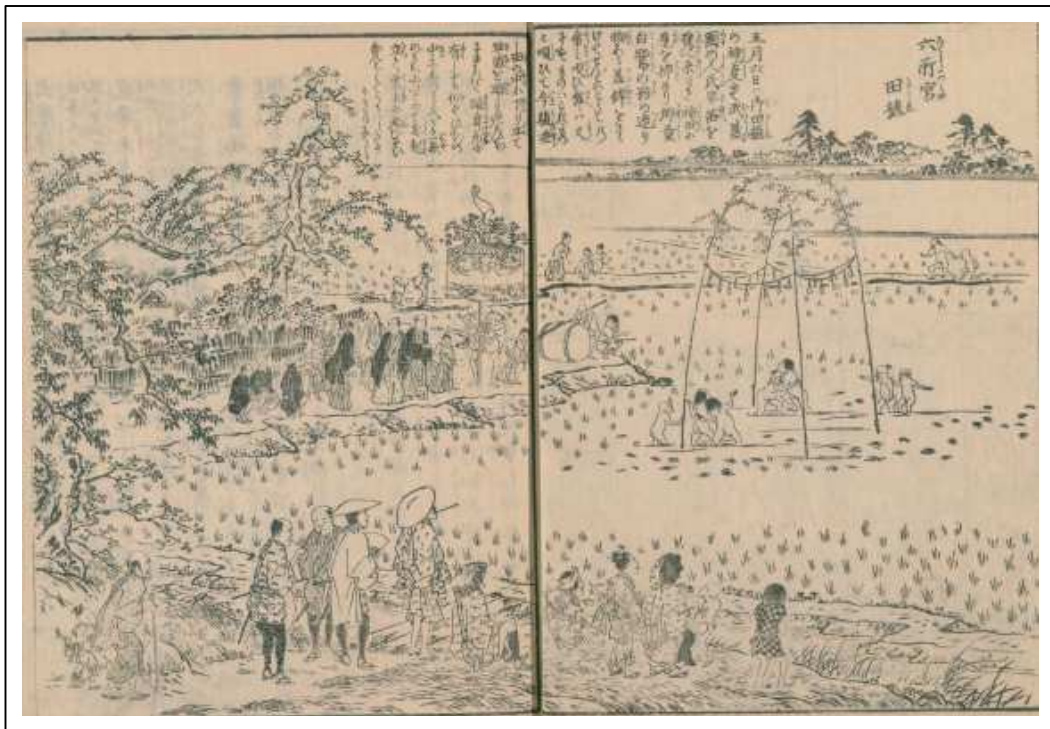
1. 御供田の苗

むかし、現在の東京競馬場北西の駐車場辺りに神社にお供えするお米を

作る「御供田」がありました。そこでは旧暦^{*1}の5月6日、くらやみ祭の翌日

に御田植祭という神事が行われていました。その様子が天保7（1836）年に

刊行された『江戸名所図会』^{*2}に紹介されています。



画像は国立国会図書館ウェブサイトから転載

*1 旧暦

月の満ち欠けの周期をもとにして、うるう月を入れることによって、実際の季節と太陽の動きと合うようにした暦。旧暦の5月は、現在の暦だと5月下旬から7月上旬頃。

*2 『江戸名所図会』

田んぼの脇には、白鷺と楓の若葉で飾られた傘鉾を持つ男のひとと、太鼓を鳴らす子どもがいます。田んぼの中では元気に相撲をしている子どもたちがいて、見物人もたくさん集まっています。

御供田に苗を 1 株でも植えれば、その年はまったく病気をせず健康でいら
れ、自分の家の農作物も豊作になると信じられていたので、人々は競って持っ
てきた苗を植えました。そして、田植えが終わると、大勢の子どもたちが裸
になって、田んぼの中で相撲をとる習わしがありました。不思議なことに、
相撲で踏み荒らされた苗は、次の朝まっすぐに起き上がったそうです。それば
かりではなく、人々が持ち寄ったさまざまな種類の苗（米苗、餅苗）を植えた
はずなのに、秋になるといっせいにみんな同じ稲穂が出たそうです。

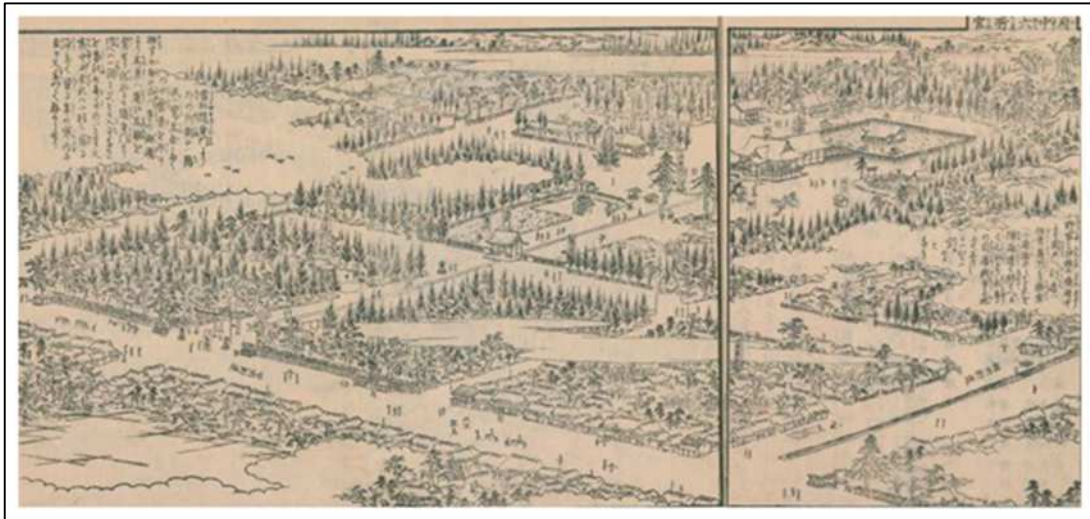
この御供田は、明治維新の時、神社の境内以外の土地として政府に上納さ
せられてしまいます。昭和8（1988）年に東京競馬場が建設された時に御
供田がなくなると、御田植祭も行われることはなくなっていました。し
かし、平成2（1990）年に時期と場所を変えて復活しました。御供田の場所
や神事の時期は毎年変わりますが、農家と農協、そして地元の子どもたちな
どに協力してもらいながら、現在も市内の田んぼで続けられています。

2. 大杉の根

むかし、神社には杉の木がたくさん生えていました。

♪ 大國魂の杉森に、輝き昇る朝日かげ・・・・・・・・♪

これは府中第一小学校の前身である府中学校の校歌です（府中学校は大國魂神社の西側、現在の府中市役所が建っている場所にありました）。大國魂神社の境内の様子は、校歌の中で「杉森」と歌われるほどだったようです。その様子は、下の『江戸名所図会』の中にある神社の絵を見ても分かります。



画像は国立国会図書館ウェブサイトから転載

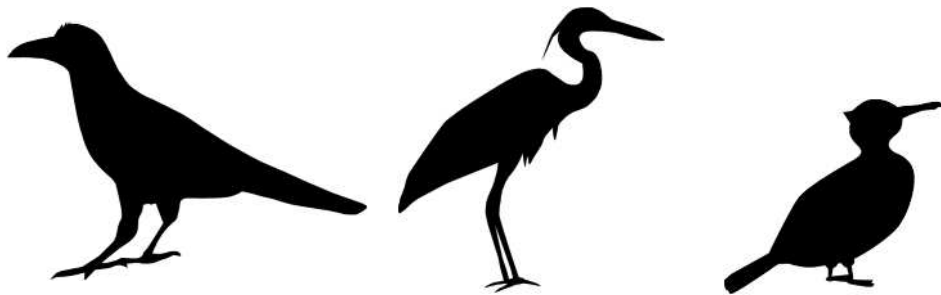
杉の木は大きくなると、根が地表に出てきて、そのゴツゴツとした姿を見えます。しかし、参道沿いにあった杉の木は大國魂の神様に遠慮したのか、根が参道まで出てくることはなかったそうです。

現在は、環境変化などの色々な影響で、境内にあった杉の木はほとんど枯れてしまいました。

3.境内の鳥類

むかし、神社の境内の森には 烏、鷺、鶇などたくさんの鳥がすんでいました。

しかし、鳥たちは決して本殿などの建物に糞を落とすことはなかったといわれています。



4.矢竹の根

神社の拝殿近くに竹が生え、石で囲われた場所があります。神社の言い伝えに

よると、むかし 源 頼朝が戦いに勝つことを祈って、拝殿の前に供え物として

竹の矢を挿しました。竹の矢は根付いて、その後、何百年も竹となって生い茂

ったのですが、石囲いの外には一本も出ないということです。



5.大銀杏のにな貝



じんじゃほんでん うらがわ なんせい あた ちか い いちよう
神社本殿の裏側(南西の辺り)に1,000年近くも生きているといわれる銀杏

たいぼく がい ね もと がい
の大木があります。むかし、この大銀杏の根元には、にな貝^{*3}がすんでいました。

がい に だ の で よ
このにな貝を煮出して飲むとお母さんのおっぱいの出が良くなるといわれてい

げんざい おおいちょう む て あ あか う あと
ました。現在では、この大銀杏に向かって手を合わせると、赤ちゃんを産んだ後

たいちょう じゅんちょう かいふく
の体調が順調に回復するといわれています。



^{*3} にな貝

がいに まきが い おおいちょう き ね もと す
にな貝の「にな」とは巻貝のことを言います。大銀杏の木の根元に住んでい
たのは木の幹や落ち葉の下、岩陰など、昼でも薄暗い場所で暮らすキセルガ
イ(カタツムリの一種で陸にすむ貝)ではないかと思われます。

6. 境内に松の木なし

むかし、大國魂の神様と八幡様がいっしょに府中へ現れた時、泊るところをさがしに行った八幡様は、気に入った場所を見つけると一人で住んでしまいました。その場所は現在の八幡町です。八幡様の帰りをずっと待ち続けていた大國魂の神様は、待ちくたびれて「まつのはつらい。まつはきれいじゃ」とおっしゃって、その場所に住むことにしました。そこが現在の大國魂神社の場所です。

このことから大國魂の神様は「まつ」を嫌うようになったので、神社の境内には「松」の木は一本もなく、植えても枯れてしまうといわれています。神社も松の木を使わずに建てられました。神社のお正月の飾りはもちろん竹飾りですし、府中では今でもお正月に竹飾りをして、

松飾りをしない家があります。



7. 樅の雫



むかし、神社には大きな樅の木がありました。その樅の木は晴れた日でも雫が降ってくることがあったといえます。『大國魂神社略誌』には一年を通じて雫が落ちてきていたと書かれています。現在、この不思議な樅の木はなくなりましたが、神社の中にある別の樅の木は府中の名木百選に選ばれています。

もっと知りたくなったら読む本のリスト

しよめい ほん な まえ 書名（本の名前）	ちよしゃ ほん か ひと 著者（本を書いた人）	しゅっぱんねん 出版年	ほん せ 本の背ラベル
おおくにたまじんじゃ さい じ き 大國魂神社の歳時記	さくら い のぶ お ぶん 桜井 信夫 / 文	2002	F17/サ
かんべいしょうしゃ おおくにたまじんじややくし 官幣小社 大國魂神社略誌	おおくにたまじんじやしゃ む しょ へん 大國魂神社社務所 / 編	1934	F175/10/カ
む さ しそうしやおおくにたまじんじやたいさいし 武蔵總社大國魂神社大祭史		2013	F175/10/ム
ふ ちゅう ふ ど し だい ほん 府中の風土誌 第7版	とうきょう と ふ ちゅう し はっこう 東京都府中市 / 発行	1981	F21/フ
ふ ちゅう し だん だい ごう 府中史談 第22号	ふ ちゅう し し だんかい へん 府中市史談会 / 編	1996	F213/10/フ
まつはきらい	お ざわ とし お ぶん 小澤 俊夫 / 文 ふたまた えい ご ろう え 二保 英五郎 / 絵	1986	F38/オ
くらやみ 祭	さわたり もりふみ ぶん 猿渡 盛文 / 文 あや べ よしお え 綾部 好男 / 絵	1998	F38/サ
ふ ちゅう くちづた しゅう 府中の口伝え 集	ふ ちゅう し りつきょう ど かん へん 府中市立郷土館 / 編	1986	F38/フ
しんばんむ さし ふ ちゅう まつり 新版武蔵府中くらやみ祭 ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館ブックレット 5	ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん へん 府中市郷土の森博物館 / 編	2018	F386/10/ム
とうきょう でんせつ 東京の伝説	とうきょうでんせつ かい へん 東京伝説の会 / 編	1981	F388/00/ト

ウェブサイト

おおくにたまじんじや
大國魂神社ホームページ

<https://www.ookunitamajinja.or.jp/>

さがしている本が見つから
ない時は、図書館の人に聞
いてみよう。



「大國魂神社の七不思議」 こども府中はかせ No.1

2011年4月発行

2025年3月改訂

府中市立図書館 編集・発行

<https://library.city.fuchu.tokyo.jp/>